

気候危機の兆候など統計のどこにも見えない

杉山 大志 (すぎやま たいし) 一般財団法人キャノングローバル戦略研究所 研究主幹

要旨 いま「気候危機」と叫ぶ人々がいる。「産業革命前からの地球の気温上昇が1.5℃になると破局になる」と言うが、本当だろうか。いま既に1.1℃だとされているから、あと0.4℃で破局するということになる。だがもしそうなら、すでにマクロな統計にその気候危機の兆候が表れていないとおかしい。だがそんな兆候は見られない。

1. 食糧生産は増え続けている

世界の食糧生産は増え続けている。これは肥料投入、農業機械利用、品種改良などの技術進歩によるものである。過去に地球温暖化は起きたが、食糧生産の増加傾向に翳りは無い。

地球温暖化によって食糧生産が損害を受けるという話がしばしば報道される。しかし世界の食糧生産は技術進歩のおかげで増え続けている（図1）。過去に地球温暖化は起きてきたが、この食糧生産量の増加傾向は安定している。

主要な作物の収穫量
(世界、データはFAO)

—— トウモロコシ
—— 米
—— 小麦
—— 大豆

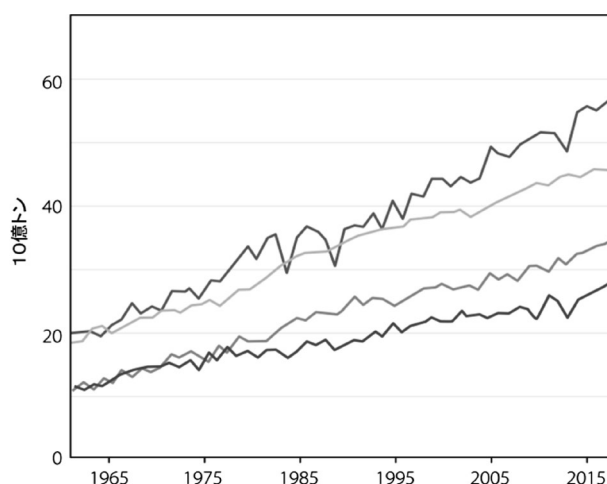


図1 世界の食糧生産量 (Goklany, 2020)

人類はCO₂の増加と気温上昇に、特段意識することなしに、自然体で適応してきた。むしろCO₂の増加は植物の生育を早め作物の生産には好影響をもたらしたはずだ¹。

気温上昇は、高温障害を起こすことはあるが、逆に低温障害は減少させたであろう。また寒冷地における農業が可能になった理由の一部は、気温の上昇に適応した結果であろう。

¹ 拙著「地球温暖化問題の探究」

https://cigs.canon/publication/books/20181212_5406.html 第3章4項。